

# くすりのしおり

内服剤

2020年04月作成

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

## 商品名:チガソンカプセル 10

主成分:エトレチナート (Etretinate)

剤形:淡赤褐色/淡赤白色のカプセル剤、長径約 14.5mm

シート記載:チガソン 10mg



## この薬の作用と効果について

皮膚や口腔粘膜の異常に固くなった部分（角化）をはがし易くし、正常な表皮や粘膜を再形成します。通常、重症の乾癬や魚鱗癬などの治療に用いられます。

## 次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。

- ・以前に薬を使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。肝障害、腎障害、ビタミンA過剰症、糖尿病、肥満、アルコール中毒、脂質代謝異常など高中性脂肪血症の素因がある。
- ・妊娠中、妊娠の可能性がある、授乳中
- ・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

## 用法・用量（この薬の使い方）

- ・あなたの用法・用量は（ :医療担当者記入）
- ・通常、成人は寛解導入に主成分として1日40～50mgを2～3回に分けて2～4週間服用します。1日最高用量は75mgまでです。その後、症状に応じて寛解維持に1日10～30mgを1～3回に分けて服用します。幼・小児は寛解導入に1日体重1kgあたり1.0mgを1～3回に分けて2～4週間服用します。その後、症状に応じて寛解維持に1日体重1kgあたり0.6～0.8mgを1～3回に分けて服用します。いずれも、年齢・体重・症状により適宜増減されます。本剤は1カプセル中に主成分10mgを含有します。必ず指示された用法に従ってください。
- ・多量の牛乳や脂肪分の多い食事と一緒に飲むことは避けてください。
- ・飲み忘れた場合は、気がついた時に、1回分を飲んでください。ただし、次の飲む時間が近い場合には1回とばして、次の時間に1回分飲んでください。絶対に2回分を一度に飲んではいけません。
- ・誤って多く飲んだ場合は医師または薬剤師に相談してください。
- ・医師の指示なしに、自分の判断で飲むのを止めないでください。

## 生活上の注意

- ・この薬には催奇形性（胎児に奇形が生じる可能性）があり、また副作用の発現度が高いので、副作用について、患者さんは十分に理解できるまで説明を受けてください。
- ・この薬の使用に際しては、以下の注意事項について十分理解できるまで説明を受けたうえで、同意した場合には、同意書に署名してください。
- ・妊娠する可能性のある人は、次の月経（生理）が始まってから2、3日後まで、この薬を飲み始めることはできません。また、この薬を使用する前2週間以内に妊娠検査が行われることがあります。
- ・妊娠する可能性のある人は、この薬を使用している間および使用を中止してから少なくとも2年間は必ず避妊してください。
- ・男性は、この薬を使用している間および使用を中止してから少なくとも6ヵ月間は必ず避妊してください。
- ・この薬を使用している間および使用を中止してから少なくとも2年間は献血はできません。
- ・関節の痛みや骨の痛みがあらわれたら、すぐに医師に連絡してください。また、この薬を長期間使用する場合には、X線検査などが行われることがあります。
- ・この薬により肝障害がおこることがあります。副作用の早期発見のために使用前、使用開始1ヵ月後および使用している間は3ヵ月ごとに検査が行われますので受診日を守ってください。
- ・高中性脂肪血症の人は、脂質代謝障害をおこしやすいので血中トリグリセライドの検査が行われます。
- ・この薬により脱毛、口唇炎、落屑（表皮がはがれ落ちる）がおこることがあります。

## この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、口唇炎、落屑（フケ状のはがれ）、口内乾燥、皮膚が薄くなる、かゆみなどが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[ ]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・関節の痛み、痛みのある赤い肌、全身の赤い斑点と破れやすい水疱、だるい [中毒性表皮壊死症]
- ・発疹やみずぶくれができる、関節の痛み、発熱 [多形紅斑]
- ・血管の痛み、皮下出血によるあざ、はれ [血管炎]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または

**薬剤師に相談してください。**

**保管方法 その他**

- ・光の当たらないところで湿気を避けて、子どもの手の届かないところに室温（1～30℃）で保管してください。
- ・薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。廃棄については、薬を受け取った薬局や医療機関に相談してください。

**医療担当者記入欄**

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、「患者向医薬品ガイド」、医療専門家向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。